

平成 22 年度

大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書

布沢 発展への道



2011 年 3 月

宇都宮大学 農学部
農業経済学科 守友裕一ゼミ

代表 伊藤亜希子

稲葉憲作 岩瀬涼 倉科芙美 小林雅人

佐藤萌香 南波美帆 戸倉毅 グゲンハス

◎目次

1. はじめに

2. 布沢区の概要

- 2-1. 地理
- 2-2. 人口構成
- 2-3. 現状（問題点）

3. 日程

4. 集落点検ワークショップ

- 4-1. 集落点検ワークショップとは？
- 4-2. 1班 布沢にいい場所みつけたよ！
- 4-3. 2班 山村の原風景が残る里 夢の浮島
- 4-4. 3班 水と考古の森
- 4-5. 集落点検ワークショップのまとめ

5. 聞き取り調査

- 5-1. 普請
- 5-2. 布沢区
- 5-3. 楽しさと元気づくりの女性の会
- 5-4. 老人クラブ
- 5-5. 集落支援員
- 5-6. 中山間地域等直接支払制度

6. KJ法

- 6-1. KJ法とは
- 6-2. 男性チーム 自然の暮らしと布沢の明日へ
- 6-3. 女性チーム ゆたかな未来
- 6-4. KJ法のまとめ

7. その他の活動

- 7-1. 恵みの森
- 7-2. 雪の暮らし体験

8. 提案

- 8-1. 土台作りとは？
- 8-2. 土台作り① 松坂峠の道路開通
- 8-3. 土台作り② 情報の共有化
- 8-4. 土台作り③ 現在あるものの維持
- 8-5. 土台作り④ 外部の人の受け入れ検討

9. 来年度からの取り組み

参考文献

後記

1. はじめに

私達守友ゼミは、守友裕一教授と学生 9 名によって構成されている。本ゼミは地域活性化についての方策と現状を知ることを目的としている。今回の中山間地域活性化事業は、守友教授の掛け声の下、プレゼミの形式で 5 月から活動を始め、実際に布沢での活動を 9 月と 10 月の 2 回行った。11 月の中間報告、2 月の雪の暮らし体験を経て現在、この事業のまとめとして最終報告を作成した。

この最終報告の目的は、3 つ。

まず布沢での活動を通じ現在の中山間地域が抱える問題点、地域に残る資源、地域の人考える理想、そしてこれからどのようにして布沢を活性化してゆくかの提案を把握することである。現状の把握を通じて今後どのような活動をしてゆくべきかの方針を示している。

次に報告書の形式をとることで今後、中山間地域の活性化を担いたいと考える人への参考とすることである。円滑な活性化事業を行う為の一助となしてほしい。

最後に学生というよそ者から見た布沢の意見をまとめ、地域の再発見に役立てることである。様々な意見を取り入れることで、拡がりの伴う地域活性化を推進していく。

この報告書そのものが地域の方々にとって、活性化の起爆剤の一つになってもらえれば私達にとってこれ程うれしいことはないと考えている。

宇都宮大学農業経済学科 3 年 守友ゼミ 一同

2. 布沢区の概要

2-1 地理

福島県西部、只見町の東部に位置する中山間地である。近隣地域は北に松坂峠を通じて金山町、東に吉尾峠を通じて昭和村がある。豪雪地帯でもあり、冬季は松坂峠が封鎖される。



2-2 人口構成

- ・世帯数：57 世帯（平成 22 年 9 月 1 日）
- ・総人口：150 人（平成 22 年 8 月 31 日）
- ・年少人口（0～14 歳）：10 人
構成比：6.4（平成 22 年 4 月 1 日）
- ・生産年齢人口（15～64 歳）：74 人
構成比：47.4（平成 22 年 4 月 1 日）
- ・老年人口（65 歳以上）：72 人
構成比：46.2（平成 22 年 4 月 1 日）

高齢化率 46.2%の少子高齢化集落である。現在、集落機能は維持されているが、10 年後にはグラフ上部の世代の人が亡くなる可能性が高い。今後の恒常的発展のためには幅広い世代の分布が重要となる。

		平成22年8月31日 現在	
	女	年齢	男
		100～	
		95～99	
5	●●●●●	90～94	
6	●●●●●	85～89	●●●
13	●●●●●●●●●●●●●●●●	80～84	●●●
7	●●●●●●●	75～79	●●●●●
6	●●●●●●●	70～74	●●●●●●●●●●
6	●●●●●●●	65～69	●●●●●
5	●●●●●●●	60～64	●●●●●●●
4	●●●●●●●	55～59	●●●●●●●●●●
4	●●●●●●●	50～54	●●●●●●●
5	●●●●●●●	45～49	●●●●●
5	●●●●●●●	40～44	●●●●●
1	●	35～39	●●
1	●	30～34	●
1	●	25～29	
		20～24	●●●●●●●
6	●●●●●●●	15～19	●●●●●●●●●●
5	●●●●●●●	10～14	●●
2	●●	5～9	●
		0～4	
82	女	年齢	男
			68

2-3 現状(問題点)

- 空き家の増加
- 少子高齢化
- 農業後継者の不足
- 冬季のどん詰まり化(松坂峠の冬季封鎖)

龍泉寺からみた布沢区 →



以上の4点が問題点として挙げられているが、上記の3点については多くの中山間地域が抱えている共通問題で有る。布沢区においての特殊な事例は、4点目の冬季のどん詰まり化である。この項目については後述する。

このように集落活性化のためには、人材の減少対策と冬季の交通網の封鎖への改善策が重要となる。

3. 日程

	午前	午後	夜
2010年 9月14日	移動（宇都宮→只見）	地区概況説明 周辺見学	区長様はじめ地区の方々へご挨拶
9月15日	布沢のいいもの探し 集落点検ワークショップ	布沢のいいもの探し 集落点検ワークショップ	当日の参加者全員で「森林の分校ふざわ」の校庭でバーベキューで交流会
9月16日	只見川電源開発の歴史学習（Jパワー只見展示館→田子倉ダム→ただみ・ブナと川のミュージアム）	移動（只見→宇都宮）	
10月15日	移動（宇都宮→只見）	地区内の各団体から聞き取り	
10月16日	KJ法による地域の再発見	KJ法による地域の再発見	交流会（餅つき）
10月17日	恵みの森散策と地域資源の発見	移動（只見→宇都宮）	
11月22日	集落活性化県民討論会 in 会津 ～大学生の力が地域を変える！～ 中間報告発表（於：会津若松市ワシントンホテル）		
2011年 2月11日	移動（宇都宮→只見）	かんじき体験 森林の分校の雪堀	県庁・小林健太郎氏と懇談

2月12日	只見雪まつり	うさぎ狩りの勢子体験 ふるさと再生応援団 「HOT けねえ」と県庁・渡邊昌明氏との勉強会 雪遊び、スノーモービル体験	「HOT けねえ」との交流会
2月13日	炭焼き小屋の除雪作業	移動（只見→宇都宮）	

4. 集落点検ワークショップ

4-1 集落点検ワークショップとは？

ワークショップとは、誰でも参加することができ、みんなで楽しみながら自由にアイデアを出し合う場である。

私たちは、布沢区内をさらに3つの班に分け、実際にあるいて布沢の「あるもの探し」を行った。布沢区のことを何も知らない大学生と、布沢区に住んでいる人が一緒になって、実際に集落を歩き、見つけた資源を全て書き出し、地図や文章にまとめることによって、住民のみなさんも、改めて布沢に何があるのか再確認をすることができる。

これらのことから、今回の集落点検ワークショップは、私たち大学生が布沢を知るきっかけづくりという点と、布沢区に住む人が地域を見直すきっかけづくりという点の2点を目的に行われた。

4-2 1班 布沢にいい場所みつけたよ!

集落点検を行った場所：集落の入口から浮島橋まで



○集落点検で見つけたもの（資源）

- ・ 緑豊か（ブナ林の存在）、清らかな川（川の広場、川を渡るための岩々、石の通路有り）
- ・ お米、野菜、お酒、星？（あの日は曇っていたが、きっと良く見えるはず）
- ・ ^{ほこら}祠や稲荷（山の神様を祀っている）→お供え物をしに山を登った。3、4箇所有り。
- ・ 里一番の桜の木。春には真ピンク。
- ・ 一等地（日当たり良好、傾斜緩やか）
- ・ 藤の花。実は意外と硬い、花が咲いたらキレイかも。
- ・ 柳の木（川をはさんで両側に有り）→見通しを良くするために除去するか？それとも吊橋に利用するか
- ・ 毒ボッコの実（ブドウ科ノブドウ属ノブドウ）→焼酎漬けの果実酒に利用可能（やけどや熱冷ましに効く）
- ・ 川の透明度！→飲める水だったら観光面ではPR効果は絶大、人が来る（恵みの森の水は飲めた）
- ・ 炭焼き小屋（やまびこ）
- ・ 花壇が2か所。角田さんの趣味。
- ・ メグスリの木。秋には真っ赤になる。



↑ 布沢の一等地



↑ 毒ぼっこ

<問題点>

- ・ 空き家の増加（26軒中9軒）
- ・ 豪雪地帯（雪下ろし大変）
- ・ 柳の木（見通しが悪くなっている）
- ・ 水の管理→耕作放棄地増加

<提案>

プラス面を強調＝資源を生かす

- ・ **布沢の自然を PR**
→清らかな川（飲める水?!）
天体観測に適した土地
- ・ **藤の花、花壇**
→フラワーロード
- ・ **祠参りを復活**
→縁結びの逸話を設定！
- ・ **毒ボッコ、けんじ茄子等の利用**
→ブランド品開発、
「熱がでたら毒ボッコ！」
- ・ **炭焼き小屋**
→交流施設として利用
米粉ピザ！

マイナス面（問題点）を逆手に取る

- ・ **耕作放棄地の転用**
→ひまわり、菜の花畑で迷路！
グランドゴルフ場を開設
- ・ **有数の豪雪地帯**（雪で遊んじゃおう！）
→天然すべり台、雪合戦大会
雪だるまコンテスト、かまくらの里
- ・ **空き家の有効活用**
→民宿、地場野菜レストラン、別荘
- ・ **柳の木**
→利用して川に吊橋を架けてみよう！



↑炭焼き小屋へと続く道



↑柳の木



4-3 2班 山村の原風景が残る里 夢の浮島

集落点検を行った場所：浮島橋から龍泉寺



○タイトルの理由

私たち 2 班は浮島橋を中心とした場所を調査した。豊かな自然と文化に恵まれ、まさしく「山村の原風景が残る里」であった。「夢の浮島」とは、浮島に対する希望を込めてつくられた言葉である。2 班を調査した人全員で名前を考え、投票を行い、このような名前に決定した。

I 集落点検を行った場所

私たち 2 班が調査した場所は村の中心地に位置している。中心地ということで他の班に比べ住宅が多くあった。また、文化と自然に恵まれ、両者が上手に共存していると言える。

私たちが調査したルートは、公民館→浮島橋→若宮八幡宮→龍泉寺の順である。以下、ルートに沿ってまとめたいと考える。

II ルートごとのまとめ

公民館・・・村の中心地に位置する。昭和 44 年の大洪水により水没した家がたくさん出た。現在は周りの道路が高く整備されている。

・発見したもの

①歴史・文化

・浮島堂（御蔵入六番礼所）

・歯の神様

・雷田様

・松坂峠の雪沼・・・雪解け水で沼が出来る。これはイモリ、カエルの産卵地となる。

②良い所

・観音寺跡

浮島橋・・・昭和 44 年の大洪水以降、防水の為に 1971 年に高く建て直した橋。若宮八幡宮に向かう途中、ネリバ、自生のポップ、綺麗な花が並んだフラワーロードなどが

あった。

・発見したもの

①歴史・文化

・庚申塔

・八王神・・・病気になった時に祈祷する。

・「小豆洗い」の伝説がある川

→「小豆とごうか、人にとって食おうか、ザク



モクザクモク」という声がする。

②良い所

- ・ネリバ・・・8段程になるハセガケ
- ・布沢川が綺麗で釣りができる（ハヤやイワナなど）。

③好ましくないこと、困っていること

- ・空き家が増えてきた。
- ・タヌキ、ハクビシン、アナグマが畑を荒らす。

④植物、食べ物

- ・びゅう・・・橋の近くに自生している。山形では茹でて辛子醤油をつけて食べる。
- ・みょうが
- ・ホップ
- ・川魚・・・溪流釣り。
- ・毒ぼっこ・・・焼酎に漬けて飲む習慣がある。肝臓にいい。
- ・フラワーロード・・・道路脇に綺麗な花がたくさんある。
- ・水林・・・いつも切らない共同の林。

若宮八幡宮・・・昔、歌舞伎が行われていた。→地元の人が集まる場所。

2010年は残念ながら中止となってしまったが、7年に1度の御遷宮祭りがある。夜に星が凄く綺麗に見えるとのこと。

- ・発見したもの

①歴史、文化

- ・若宮八幡宮・・・歌舞伎
- ・ばんばの橋
- ・布沢最初の学校
- ・不動滝・・・昭和44年の大洪水まで滝があった。滝の上に不動様が祭られていた。
- ・ドートクシ山・・・昔の子どもの遊び場。
- ・南山義民の古文書



②良い所

- ・おいしい清水
- ・神社から見える星が綺麗。

③好ましくないこと、困っていること

- ・若宮八幡宮で歌舞伎が行われなくなってしまった。
- ・耕作放棄地が出てきた。

④植物、食べ物

- ・けんじ茄子(写真参照)



龍泉寺・・・龍泉寺に向かう途中、旧なめこ工場があった(写真左)。現在は空き家となっている。小高い場所に位置する龍泉寺からは、私たちが調査した集落を一望することができた。



↑旧なめこ工場 現在は空き家



↑金山かぼちゃ

- ・発見したもの

①歴史、文化

- ・龍泉寺

・バツタリ跡・・・龍泉寺から少し離れた所に位置する。バツタリとは流水を利用して石臼を搗き、雑穀を製穀、製粉する、大きな丸太をくり抜いた「獅子落とし」のような形の道具。

- ・旧なめこ工場

- ・摩屋仏

- ・六地藏

- ・義民の墓・・・南山御蔵入り騒動における百姓代表の茂左衛門が奉られている。

②良い所

- ・コイの養殖

- ・見晴らしがいい・・・集落を一望できる。

③好ましくないこと、困っていること

特になし

④植物、食べ物

- ・金山かぼちゃ（上記写真右）・・・赤色の方がおいしく、甘い。
- ・ドクダミ
- ・くるみ
- ・山椒・・・魚を乳酸化させ、ご飯と一緒に食べる。
- ・クリの木
- ・とうがん（かんぴょう）
- ・きれいな山桜

Ⅲ調査をして感じたこと

今回公民館を中心として調査を行った。全体としては文化と自然が共存している姿に感銘を受けた。これは厳しい自然環境の中、その自然を壊すのではなく、上手に自然と共生してきた先人たちの努力の賜物であると感じた。また、集落の方々と調査を共にし、様々なことを話しているときの楽しそうな顔が忘れられない。しかしその反面、神社での歌舞伎が無くなってしまったことなどの好ましくないことについて話している時は、声がどこか重く、地元の方の地元に対する思いを知り、どうにかしなくては、という思いを強く抱くようになった。

金山かぼちゃやけんじ茄子などの珍しい野菜もたくさん見られ、自然豊かな布沢。刈屋さんに「この中の数軒が空き家です。」と言われ、過疎化、集落機能の低下が現実問題として起きている布沢。このような布沢を見てきて、私たち2班は以下のようなことを提案したいと思う。

Ⅳ提案

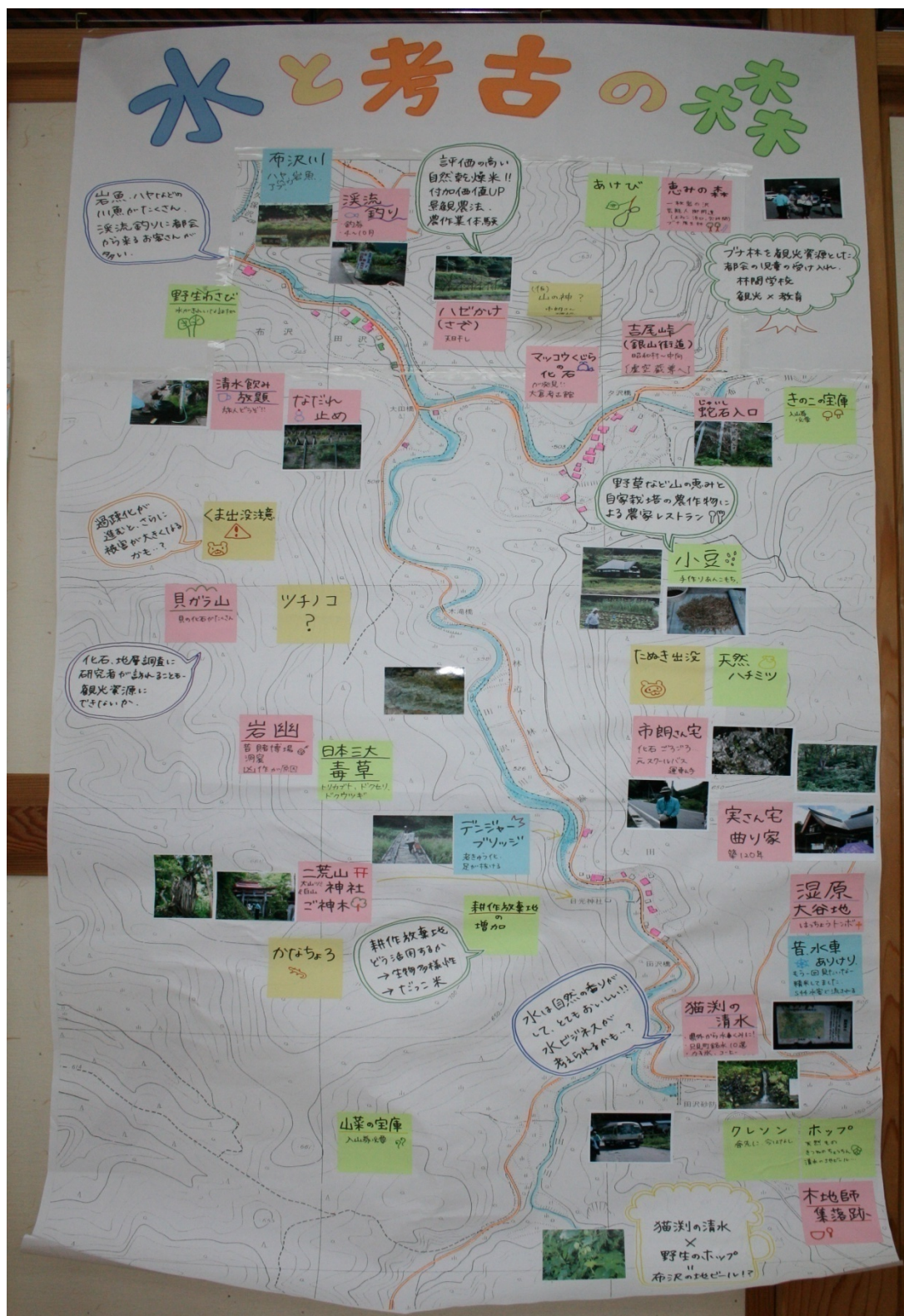
- ・フラワーロードを作り、ブナ林を巡るコースを作る。
- ・子どもや大人が川や魚（自然）と触れ合える場の作成。
- ・ホテルが来る環境を整え、鑑賞会。
- ・神社の活性化（歌舞伎、祭りの復活）。
- ・観音様の整備。
- ・豊かな自然を活かした特産品作り。
- ・布沢の歴史を巡るコース作り。

→以上のことを通し、少しでも多くの人に布沢の豊かな自然を知ってもらおう。また、リアルな布沢を知ってもらおう。



4-4 3班 水と考古の森

集落点検を行った場所：沖の原・百目木・田沢・木滝・川下・太田地区周辺



○地区の特徴とタイトルの由来

この地区は布沢区の中でも一番の奥地で、自然豊かである。布沢川に沿って調査を行い、水、化石、森の3つが代表的な資源のキーワードとして上がったため、「水と考古の森」というタイトルがついた。



○水

布沢川はワサビが自生しているほど奇麗で、ハヤや岩魚などが釣れる。これを目当てに東京などから毎年溪流釣りに訪れる人が多くいる。釣券を購入し、森林の分校に泊まる人が多い。

太田地区には、只見町銘水 10 選にも選ばれている猫淵の清水がある。県外から水汲みに訪れる人がいるほどの人気で、自然の香りがしてとてもおいしい。近くにホップが自生していたことから、布沢地ビールができないかと提案された。他にも、湧き水を使ったカキ氷やコーヒーが提案され、水ビジネスが検討された。

また、この近くには昔は水車があり、精米をしていた。昭和 44 年の水害によって流れてしまったが、もう一度見たいという声が聞かれた。

○化石

貝の化石が多くとれる貝殻山と呼ばれる山があり、この近くでは足元で化石を見かけることが珍しくない。マッコウクジラの化石が発見されたのもこの地区で、現在は町の博物館でみることができる。



↑ 貝の化石

○森

保護林「郷土の森」として指定を受けている恵みの森がある。約 920 ヘクタールに及ぶ

ナ原生林で、山のガイドに案内してもらうこともできる。水や山林資源、豊かな生態系などの恵みをもたらしてくれる美しい森である。都会の児童の受け入れや林間学校など、教育とかけあわせて、さらなる観光資源になるのではないかと提案された。

他にもきのこや山菜の採れる山があり、入山券を販売している。

○文化など

築 120 年になる伝統的な曲り屋がある。

昭和村へと続く吉尾(銀山)峠がある。

昔は漆碗の原料供給地で木地師が暮らしていた。

コケやご神木が奇麗な二荒山神社があり、今も丁寧に管理されている。

他の地区に比べ空き家が少なかったが、これは管理をしないと一冬で家がつぶれてしまうほどの豪雪地帯だからであり、過疎が進行していないわけではない。また、山際の畑は耕作放棄されるものが増加している。しかし、はぜかけの方法が独特であることから、景観農法や農作業体験などが提案された。野草などと自家栽培の農作物を使った農家レストランができるのではないかとという提案もあった。



4-5 集落点検ワークショップのまとめ

2010年9月に行った集落点検ワークショップの結果を下記に表す。

今回の調査が9月であり、夏の時期であったため、植物に関する結果が多かった。
また四季に関係ない町の資源としては、遺跡などの歴史的なものが多く見つかった。
これから秋・冬・春などの季節に訪れると、別の農作物や自然の資源を見つけられるの
だろう。

布沢でみつけた資源をA・B 2つの視点から考えてみる。

A) 産業論の視点

持ち出せる資源	: 商品化し、他地域へ売り込むことを目的としたもの
商品化	: 外貨を稼ぎ、地域での雇用を生み出せる資源

B) 生活論の視点

持ち出せない資源	: モノ以外、持ち出すことにより価値が失われるもの
未利用資源	: 経済では表せない資源

A・・・持ち出せる資源

B・・・持ち出せない資源

【動物】 3 野生動物による、農作物被害がある。

B熊 アナグマは意外と美味しい。

Bたぬき

Bかなちよろ (爬虫類)

【自然】 8

Bブナ原生林 恵みの森、癒しの森

B桜 (春)

B藤の花 花が咲いたらとても綺麗

B草が生い茂る (夏) 夏は鬱蒼としている。

B湿原

B雪 (冬) 雪で空き家がつぶれる。雪かきが大変。峠が封鎖。2月に雪まつり。

B花畑 老人クラブが管理している

A化石 3班。貝・マッコウクジラの化石

A インテリア・工芸品 I ターン者の今井さんが制作している

【天然の食材】15

A 毒ぼっこ→焼酎漬け

B 毒せり

B トリカブト

日本三大毒草 化膿止めなど、利用法あり。
毒せり、トリカブトは漢方薬として利用できるが、許可が必要
なため、今回は持ち出せない資源とした。

A どくだみ

A アケビ

A キノコ

ブナ原生林 なめこ・ぶなはりたけ

A クレソン

3班

A 山菜

3班

A 天然はちみつ

3班

A 野生のわさび

3班

A ホップ

2班・3班

A くるみ

2班（お寺を登る途中）

A 山椒

2班

A みょうが

2班

A びゅう

（分校、畑に）山形では茹でて辛子醤油で食べる。

【農作物】3

A じゅうねん（えごま）

乾かして、実を採るのが大変。 おにぎりやドレッシングなど

A 金山かぼちゃ

オレンジ色で、真ん中におへそが付いている。

甘くて美味しい。

A けんじ茄子

白っぽく、普通の茄子の2倍はある大きさ。

A サンマルツァーノ（トマト）

I ターン者の松沢さんが作っている

【土地】7

B 耕作放棄地

水の管理の困難さも一つの要因である

B 空き家

どんどん増えている。活用出来ないか？

B コイの養殖

B なめこ工場

現在は空き家

B ネリバ（はざかけ）

B 炭焼き窯

交流施設やまびこ

B 一等地

日当たりが良く、傾斜は緩やかな土地

【遺跡系】5

B 若宮八幡宮	昔は歌舞伎をやっていた・清水がある
B 龍泉寺	無人。丘の上にある。
B 庚申塔	
B あたごさま	
B 祠	1 班 お供え物をしに山を登る。3, 4 か所ある

【川】 4

B 橋	たくさんの橋がある。
B 洪水	昭和 44 年の大洪水
B 川魚	たくさんの川魚がいる → 2 回目の調査の時に鮎とり

・上記の資源をまとめると、以下の通りになる。

A) 産業論の視点での資源：外貨を稼げるもの

- ・自然
- ・天然の食材
- ・農作物

B) 生活論の視点での資源：自然要素を重視

- ・土地
- ・動物
- ・遺跡系
- ・川
- ・地域の伝統

ワークショップを行って出た提案の分類

A：持ち出せる資源

- ・毒ぼっこ、けんじ茄子をつかってブランド品開発
- ・豊かな自然を活かした特産品づくり
- ・水ビジネス（湧水を使ったかき氷やコーヒーづくり）

B：持ち出せない資源

- ・河川などをつかった布沢の自然体験
- ・子どもや大人は川や魚（自然）と触れ合う場の作成

- ・ホテルが来る環境を整え、鑑賞会
- ・神社で歌舞伎、鑑賞会の復活
- ・桜、藤の花、花壇でフラワーロード
- ・祠参りの復活
- ・耕作放棄地でグランドゴルフ場をつくる！
- ・炭焼き小屋を交流施設として活用
- ・空き家で民宿、別荘、農村レストラン
- ・冬の雪を使った都市小学生との交流
- ・柳の木で川に吊り橋をかけよう！
- ・ブナ原生林を巡る自然体験コース
- ・布沢の歴史を巡るコースづくり
- ・ブナ原生林を教育と掛け合わせて、観光資源にする
- ・はぜかけなど、景観農法、農作業体験

<考察、感想>

- ・布沢に住む人みんな布沢の今について共通認識をする場が持てた。
- ・思い出話や自慢話を聴くことができ、布沢のプラス面が見つかった。
- ・住民の情報を共有する場とすることができた。
- ・どれも抽象的なものばかりで現実味はあまり感じられないけど、集落点検ワークショップを行ったことによって布沢の“あるもの探し”ができた。たくさんの“あるもの”を見つけだすことができ、将来が広がった気がする。
- ・危機感がいい意味で無いように思う。その感覚を活動に向かって行ければ良いと思う。
- ・「持ち出せる資源」<「持ち出せない資源」
→「持ち出せない資源」が多いということは、布沢にしか無い魅力がたくさんあるということ！！あとはそれらを基に出来ることから始めてみて、情報発信していけばいいと思う。情報発信であれば学生がサポートすることができる！

5. 聞き取り調査

5-1 普請

①団体の概要

集落の環境を守るために集落の住民が共同で管理、整備の作業をするのが普請である。大変な苦勞であるが、集落維持のために重要な取り組みである。

公共施設の除雪は普請の仕事である。また集落で意見が出れば普請で実施される（山菜、きのこ採りに関する看板設置、撤去など）。部外者が来てきのこを採ったりゴミを捨てたりするための対策として必要となっている。

普請は日曜日に行われ、参加者全員には保険が掛けられる。普請に出られない場合は、半日単位で 2,000 円を支払うことになっている。基本的に出られる人は出ることにしているが、高齢者、体調不良者は世話人の判断により普請を免除される。また結婚式、消防団の行事などがある場合も免除される。

●種類

農道、山道、人道、河川の清掃、社寺普請、大門普請（お盆の寺の清掃）、水路の普請（布沢のみ）

●普請世話人

役割分担を決める総取りまとめ役。世話人の人がやりやすいように実施要項を定めてある（2, 3年毎に更新）。

②現在抱えている課題、問題点

- ・全員ではないが今は苦情を言う人が出てきた。
- ・高齢者が多くなり人数が集まらないため、若い人への負担が大きくなっている。
- ・昔は分担は自然に決まっていたが、今は世話人が決めないと上手くまとまらない。
- ・水路が点在しているため、利益者負担になりやすい。→維持管理が出来ないと耕作放棄につながる
- ・1人当たり3万円以上掛かる費用は町負担と提案したが議会が却下した。

5-2 布沢区

①団体の概要

団体名：布沢区

代表者：区長(任期2年)

評議会：区長：1名、評議員：7名 会計幹事：2名

参加者：区民150人

②これまでの活動の歴史

明治時代から集落の自治のために組織されていた。布沢は豪雪地帯ということもあり、住民同士の協力は不可欠であった。農業が衰退し始め、出稼ぎ労働も行われるようになった昭和 30 年に、集落の管理を目的に二十条ほどの規則が作られた。内容は農道、水路、山道の維持管理や祭りなどの普請が主なものだったという。昭和 40 年頃からは過疎化が進行し、集落の管理だけでなく、地域の活性化も求められるようになった。

③現在行っている活動

現在、布沢区では集落の維持管理と活性化のために、さまざまな活動を行っている。布沢は只見町でも一番の奥地であり、このコンプレックスが事業を活発にしている。また、集落活性化計画を立てたことで、県からの補助が受けやすくなった。

・只見町布沢区「集落づくり事業」主な実施事業（全 35 事業）

ブナ伐採中止事業

自主防災組織の結成

集落内農地の基盤整備事業

集落内の美化運動の推進

集落「年賀交歓会」

伝統行事保存事業

第 1 次集落活性化計画の策定「布沢・坂田のあした」

只見特産（株）わらび園整備

ブナの原生林林野庁から「郷土の森」の指定を受ける

山村の暮らし体験宿泊施設「森林の分校・ふざわ」の整備

「第 9 回美しい村コンテスト・農林水産大臣賞」の受賞

ブナの原生林「恵みの森」のブナの葉音が「福音の音の 30 景」に選ばれる

布沢集会所『森林のふるさと』

坂田集落と連携して「農業機械利用組合」設立

「除雪支援隊」の結成

一人暮らし世帯「ひと声かけ運動」

大晦日の「大松明あかし」

村づくり「ワークショップ」の開催

「恵みの森」構想の策定

松坂峠を越えた金山町との交流事業

「国民の意識調査」の実施

うつくしまの川・サポート制度合意書締結
歴史街道の保全と交流事業
普請実施要領の策定
葬儀の簡素化事業
「森林の分校・ふざわ」民営化
神社の合祀事業
地藏尊堂の改築事業
「普請路線実施計画書」策定
国際賞「シーコロジ賞」の受賞
山菜。きのこ等資源保全事業
金山町と「癒しの森林」づくり
恵みの森林遊歩道の整備事業
ふるさとの交流ネットワークづくり事業
「吉尾峠を越えた新たな交流圏づくり事業」

④現在抱えている課題、問題点

- ・高齢化(高齢化率 47 パーセント)による一人暮らし世帯の増加、空き家の増加
- ・地域への誇り、自信を失う心の過疎化
- ・農林業の衰退による農地の荒廃
- ・若者の流出
- ・住民の時代への危機感のなさ

⑤今後の方向、将来について一都市との交流を中心に

- ・集落の担い手である若者の定住、人口分布のバランスを整える
- ・集落の役員半数に女性を起用する(現在は男性のみ)
- ・選挙権を女性、若者にも与える(現在は世帯主のみ)、一戸一票から一個一票へ
- ・都市から新規就農者やグリーンツーリズムなどで人を呼び込む
- ・地域資源の発見
- ・農業と伝統を維持する(農協ではなく産直などで消費者と直接つながる、少量多品目など)
- ・空き家にI、Uターン者の受け入れ
- ・食の安全、環境問題などは農村のチャンス

5-3. 楽しさと元気づくりの女性の会

①団体の概要

「楽しさと元気づくりの女性の会」

- ・代表者 ^{つのだ} 角田和子さん
- ・参加者など 15～20人で人数制限などは特になし。70、80歳代が多い。

②これまでの活動の歴史

H20年3月から活動を開始。

・きっかけ

a. 「只見町社会福祉協議会」→ふれあいいきいきサロン

ふれあいいきいきサロンとは・・・高齢者なら誰でも参加できる。担い手は、近所の住民、サロンを利用する高齢者、ボランティア。この3者が中心となり自発的に活動を行う。

- I 楽しさ、生きがい、社会参加
- II 無理なく体を動かせる
- III 適度な精神的刺激
- IV 健康や栄養について意識する習慣が身に付く
- V 生活にメリハリをつける
- VI 閉じこもらせない

以上の6つが只見町社会福祉協議会の基本理念であると言える。

b. 助成金がもらえる・・・刈屋さんに相談し、角田さんら5～10人程度で活動することを決めた。

③現在行っている活動

「くつろぎ、楽しい時間を過ごすこと」がテーマ。

a. 内容

- ・旅行
- ・ゲーム
- ・保健、健康管理
- ・研修

一人暮らしの人が多いため、特に決まりは設けず、参加者の生きがいになるようなイベントづくりを心がける。

b. 参加費・・・200円＋米1合

c. 活動時間・・・10時～14時までで、主に平日に行われる。冬は活動を休止する。

班長に連絡をして出欠の確認。



今までの活動をまとめる。

角田さんたちが相談し、企画・提案。⇔ 刈屋さんが広報を担当する。

④現在抱えている課題、問題点

- ・若い人が少ない。
 - ・先立って行動をする人がいない。
 - ・次の代表がいない。
 - ・反対する人も中にはいる。
 - ・料理・・・参加者は遊びに来ているため、料理を作らない。作るようにすると人が集まらない。衛生面を考え、持ち帰りは禁止とした。
- } 続けるにはどうしたよいか？
} どんな企画にするかの案が欲しい。

⑤今後の方向性

- ・旅行をもっと行いたい。
- ・これからもずっとこの活動が続いて欲しい。

5-4 老人クラブ

菅家市郎さんへのインタビューから

布沢区の老人クラブは、人数が多いので2グループあり、鈴木玄琢さん代表の第1老人クラブと、菅家市郎さん代表の第2老人クラブの2つのグループに分かれて活動を行っている。参加者は、地区内の60歳以上の高齢者の方々に加入者数は、2グループ合わせて80人程。ただ、実際に活動に参加できる人は20～30人程だという。活動内容としては、20年程前までは分校前でゲートボールやカラオケをしていたが、現在は神社やお寺の清掃、観音様や公民館周りの草刈り、地区内の花壇作りなどを中心に活動を行っている。この変化は、地区内の人の高齢化と人口の減少からみんな農作業など家でやらなければならない仕事が多く、十分な時間を確保することが難しいからである。現在抱えている問題点はとくには無いようだが、今後も老人クラブが継承されていくことが今後の課題のようだ。布沢の老人クラブで特に印象的なことは、みんなで協力し、積極的に活動していることで、昔から顔なじみの人が多く、誰がどこに誰と住んでいるかなどの情報も把握できている点である。そのため、情報の共有化が成り立っており、お互い気を遣い1人暮らしのお年寄りの所へは、きのこを採ってきてあげたり、雪かきを手伝っ

てあげたりと地域内での協力関係が十分に確立されている。以上からも分かるように布沢地区の老人クラブは、お年寄りのつながりを強くする効果もあり、地域になくてはならない存在だ。老人クラブは、今後も現状維持していくことが必要である。



←菅家市郎さんに案内してもらった山の神

5-5 集落支援員

①団体の概要

- ・まちづくり推進員会（明和地区センター）

只見町には明和地区、只見地区、朝日地区の計3地区にまちづくり推進員会の地区センターがある。各地区に4人（センター長、事務職員、まちづくり推進員2名）配属される。

- ・代表者

明和地区センター長 飯塚さん（H22年10月現在）

- ・聞き取りをした人

明和地区まちづくり推進員 渡部公章さん

②これまでの活動の歴史

平成11年度 明和地区センター活動開始

平成19年度 まちづくり推進員 誕生

③現在行っている活動

- ・広報誌づくり（女性のまちづくり推進員の方）
- ・情報収集
- ・町の見回り（集落の人との会話）
- ・運動会の種目の打ち合わせ
- ・地区と行政との仲介役（地区の相談を行政に持ちかける）
- ・サポート事業で農地の貸出

- ・収穫祭
- ・中学生の農業体験と民泊（1~2泊）
- ・娯楽の場作り（例・・・グラウンドゴルフ）

④現在抱えている課題・問題点

渡部さんの場合

- ・5月に推進員になったばかりなので、まだまだ地域の情報が少ない。
- ・冬を経験していないから不安が多い。→雪のため情報収集などが従来通りできない。

全体として

- ・民泊をやりたいが、水や金銭的な問題がある。
- ・他の事業の真似事をしているように感じ、地区の特色を活かしきれていない。

⑤今後について

- ・たくさん現地に足を運び、地域の声をもっと聞きたい
- ・農家民泊
- ・小さな保冷施設をつくりたい→流通の高度化

渡部さんの考えるまちづくりのイメージ



⑥感想

今回渡部さんの話を聞き、地域を守りたい、一緒に活動していきたいという思いを強く感じる事ができた。また、まちづくり推進員と聞くと行政からの請負かつ行政レベルでの活動がもっと行われていると考えていたが、実際は住民の声をよく聞いた集落レベルでの活動に力を入れていることが分かった。現在は情報収集が主になっているが、活性化事業や大学生の呼び込み、NPOとの協力（緑のふるさと協力隊）をし、若者の受入体制を整えられたらどうだろうか。例えば4泊5日などの短期プログラムでも地域と密接に関わることができる。また、インターネットの普及によりプログラム

終了後も地域と、そして一緒に活動した仲間たちと交流を持つことができる。住民をはじめ県や町とそのような協力を行うことができれば、もっとまちづくり推進員の果たす役割は大きなものになるのではないだろうかと感じた。

5-6 中山間地域等直接支払制度

この制度は 2000 年から行われている、中山間地域等の条件不利地域で耕作放棄地の発生をおさえ、農業の持つ多面的機能を発揮させる活動を行うときに、その活動に対して支援を行う交付金制度である。

①団体の概要

中山間地域等直接支払制度布沢集落協定 代表者：山内さん

加入者数：38戸、60歳以上が多い。

②これまでの活動歴史

I期（13～16年度） 交付金の内50%まで個人配分できるが、0%にして集落へお金を回す

面積24町歩

交付金の収入総額 1067万円→公民館の建設費用（総工費4千3百万円）に充てる

II期（17～21年度） 個人配分は20%、面積19町歩、交付金総額1500万円
コンバイン購入補助、あぜぬり機、耕耘機、代掻機、かまぼこ型倉庫、
ミニライスセンター（坂田地区と農機具を共同利用）

III期（22年度～） 交付金は通常単価の80%、個人配分率30%

面積19町歩弱

7割が町の補助で圃場整備、地域全体の管理→林道の砂利敷き、木造橋の架け替え

③現在抱えている課題・問題点

・なぜ個人配分率を最高50%にしないのか？

→集落には非農家22戸もある。集落協定による交付金の為、普請に参加しても集落内に交付金を貰える人と貰えない人がいるため最高率には出来ない。

・農地・水環境保全向上対策により直接支払制度の集落配分機能を移転する案。戸別所得補償制度を、直接支払制度の個人配分分に代替しようとする動き

→地元は反対。戸別所得補償は農業所得に対しての個々人への配分機能であるため。

※ここでいう「集落」とは、「一団の農用地において協定参加者の合意の下に農業生産活動等を協力して行う集団」を指す。

④集落協定

メニュー1（集落の将来像を明確化し、5年間の最低限の農業生産活動等を行う協定）

必須要件（全ての協定で必須）

集落マスタープランとは・・・

10～15年後の集落の将来像を明確化し、その将来像の実現に向けて5年間で集落の取り組む活動内容やスケジュールを協定参加者の総意の下に位置づけるもの。

メニュー2（メニュー1の内容に加え、協定期間内に農業生産活動等の体制整備を行う協定）

選択要件（通常単価（体制整備単価要件））

将来に向けた農業生産活動の体制整備に向けた積極的な取り組み

メニュー3（より積極的な取組を行う協定）

選択要件（加算措置）

6. KJ 法

6-1 KJ 法とは

KJ 法は、各自の頭の中にあるぼんやりとして体系立っていない意見の断片を、一枚の紙の上に明確な図式構造として浮かび上がらせる力を持っている。

私たちは、9月15日に集落点検ワークショップを行い、10月15日に集落内団体の聞き取り調査を行い、そこで大体ではあるが、布沢の現状を知ることが出来た。しかし、まだまだ集落の現状や、みんなが想っていること、考えていることを書き出すことによって理解し合うことができるのではないかと考え、10月16日に KJ 法を行った。

そして今回の KJ 法は男性チームと女性チームに分かれて行った。これは、男性と女性でどのような意見や考えの違いをみるためであった。また、まとめかたにも、どのように差があるかみてみた。

6-2 男性チーム 自然の暮らしと布沢の明日へ



・参加人数

地元の参加者 8名、学生 4名 計 12名

・目的

布沢集落の現状・理想・提案を学生と集落双方が理解し、それぞれが行っていくべき課題を明確化する。KJ法によって視覚的に捉え、直感的に理解できるので情報共有が円滑に行われる。

・タイトルの経緯、由来

経緯についてはKJ法による分類分けの終了後、参加者一人一人がタイトルを考えた。その中から挙手制で最も多くの得票数を得たものを採用した。

タイトルの由来について。布沢の生活は、豊かな自然との共生によって成り立っていることが分かった。そしてこれからもこのような生活が続くようにとの想いを込め、「自然の暮らしと布沢の明日へ」とした。

・配置の説明

布沢集落で作成した際はそれぞれの項目ごとに分類したのは変わらないが、左側に現状、右側に理想と提案を配置するだけの簡素なものであった。それでは効果的な見せ方になっていないと思い、大学へ戻ってからゼミの時に現在の形に修正した。具体的には上下に現状、左右に理想（左側は「守り」の理想、右側は「攻め」の理想）、中央に提案という構成になっており、最も伝えたい提案を強調する配置にした。以下にそれぞれの項目の説明と特徴を示す。

・項目の説明・特徴

現状

（図の上部に自然、文化・伝統の2分類、下部に農業、暮らし・生活、その他の3分類の計6分類）

①自然（全12項目、村景観3項目、自然景観9項目）

村景観と自然景観の2項目で構成されている。村景観については棚田、四季折々の生活感など集落生活を続けていく中で形成されてきたものである。自然景観についてはブナ林、川、空気、水、緑のように布沢集落に元々現存していた物である。

現在も残る村・自然の資源を中心にまとめられている。

②文化・伝統（全7項目、「守る」！5項目、「伝えよう！」2項目）

「守る！」と「伝えよう！」の2項目に分類されている。「守る！」については化石やぞうりなどの歴史を感じるもの、歌舞伎、神社、祭りのように伝統文化や資源を守っていくことを重視して分類した。「伝えよう！」については、方言、前例踏襲主義が強すぎるの、ようにこれからも続いてゆくべき習慣を伝えることを目的にまとめている。「伝えよう！」

の項目の中で現行の状態への問題点を挙げており、改善すべき課題も明確化されている。

③農業（全6項目）

美味しい野菜、山菜きのこのような農産物についてと、問題点として挙げられるような空き家をどうするかや農道の整備によって構成されている。

④暮らし・生活（全13項目）

この項目は利点と問題点が明確に分かれており、特に問題点についての指摘は今後の集落生活の根幹に関わることである。現状理解のうえでこの項目の十分な把握なしには、今後の提案につなげていくことは出来ない。

利点については人の心が温かい、ボランティアに頼り過ぎない、地元愛のように人と人同士のつながりの深さ、一人一人の自立した生活について言及されている。問題点としては道路が狭い、冬季の老人の一人暮らしが大変、除雪作業が大変、人口減少が主な項目となっている。豪雪地帯ならではの悩みが見られる。そして少子高齢化の影響に対する懸念もうかがえる。

⑤その他(全3項目)

星がきれい、夜の静けさ、ゆっくり考え事が出来るの、ように上記の4項目に分類し切れなかった項目をまとめている。

理想（図の右側に「攻めの理想」、左側に「守りの理想」の計2分類）

①「攻めの理想」（全24項目）

まず攻めの理想の説明から始める。攻めの理想とは集落の人たちが自主性を持って取り組む事を前提にした理想である。自らが主体的に行う前進性が備わっている。

次にその具体的内容に入る。交流人口の拡大、自然を生かした教育の充実、働く場の創出、遊休農地の活用、活発な農林業、子どもが多い集落、若い後継者、文化行事を多く行うなど多くの理想があげられた。それだけ考えが溢れていることの裏づけであり、活発な活動の原動力として働くだろう。

②「守りの理想」（全17項目）

同様に説明から始めれば、自然や文化、伝統行事など今後もつつがなく営まれ守られていくべきものへの意思である。廃れることがあってはならない郷土愛・自然愛から生まれる理想である。

具体的な項目については、自然景観の継続的残存、笑顔が絶えない、郷土料理を残す、整備された農道、子どもから老人までそれぞれがすることがある、現状の良いところを残

すなどである。この理想によって生じるのは心理的な支えとも言える。

提案 (行政側、民間側、民間+行政の計 3 分類)

①行政側への提案 (全 13 項目)

人的支援、バリアフリーの拡充、空家活用で I ターン者受け入れ、郵便局への窓口業務委託、吉尾岬の整備。松坂岬の冬期開通などのようにインフラ整備と活性化への補助制度についての言及がなされている。多くの活性化策を講じていたといっても、まだ十分とはいえない部分もあり、効果的な行政支援により集落住民との相乗効果を狙っている。

②民間側への提案 (全 13 項目)

米粉ピザ、森の居酒屋、市場を通さない直売システム、学習会、農業体験、町役員の半分を女性になど主に地域資源を生かした取り組みや集落機能の維持・活性化に向けた活動についての項目が多い。自分達ができることを行っていく事で、集落の活性化を推し進めることが目的である。

③民間+行政への提案 (全 8 項目)

この分類は民間と行政の中間的な提案や相互の連関によって成り立つ項目によって構成されている。集落営農組織の設立や役場と集落の共同システム、ビジターの受け皿の整備、一人暮らし老人を支える、地場製品の加工工場などが上げられている。

今回、この行政側と民間側への提案の中で最も効果があると推測できるものを 1 つ挙げ、その理由とともに提案の両端に配置した。以下にその内容を述べる。

行政側 松坂岬の冬期開通

理由は 5 点。交流人口の拡大、どん詰まり集落からの脱出、冬季の金山、会津との交流、賑わいによる地域活性化への展望、閉塞感からの脱出。この項目については後述するので詳細は省略する。

民間側 農業宿舎、農村レストラン、別荘レストラン

理由は 5 点。空き家の活用、耕作放棄地の活用、郷土料理を伝える、農業による地域活性化、I・U ターンなどの他者の受け入れ。この提案により集落が抱えている問題点、耕作放棄地、空き家を解消し理想の 1 つである交流人口の拡大も促される。また郷土料理を多く伝えられ守りの理想の実現にも寄与する。集落の中心産業である農業の活用も出来、他者の受け入れのような今後の活性化への取り組みの大きな方向性も示せる。このようにこの提案を実現することで相乗効果を発揮し、集落活性化への効果は大きい。

・考察

今回の結果によって図の中央部の提案によって活性化への推進を図り、図の両端の理想によって提案の推進剤とし、図の上下の現状によって提案・理想の裏づけとしている。これを1つ、集落活性化への土台と据える事も出来る。勿論、現行段階での現状・理想・提案なのでこれが今後の活動を通じて推敲され、より実感を伴った内容となっていく。始まりの一步としては十分な結果が示せたといえるのではないか。

また今回の **KJ** 法によって書かれた項目の総数は 116 となり、参加人数は 10 名程度であつてもこれだけの内容の充実が出来たことは、それだけ参加者の意欲の高さの証明とも言える。



6-3 女性チーム ゆたかな未来



・参加人数

地元の参加者 7名

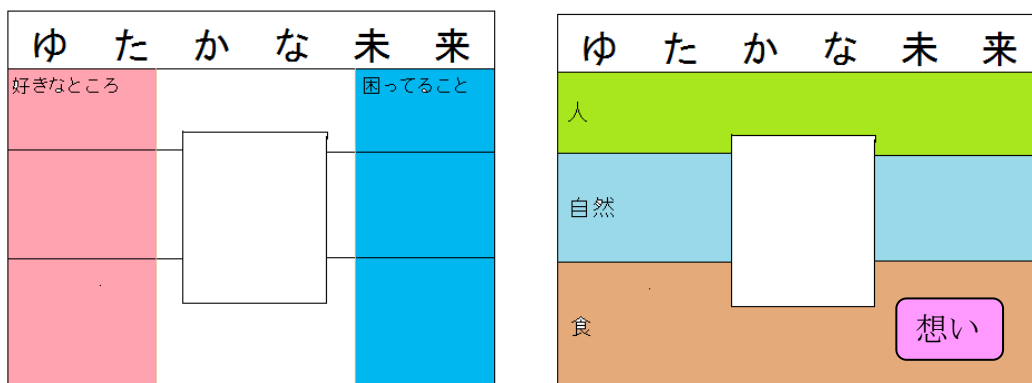
学生 4名

合計 11名

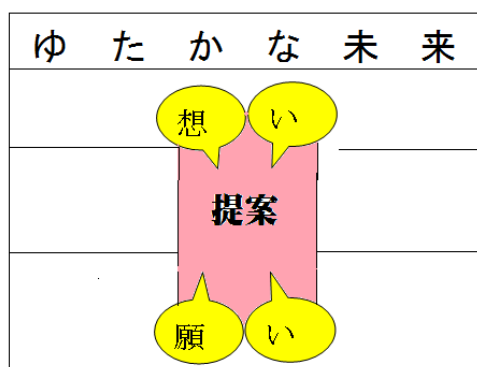
題名は『ゆたかな未来』で、布沢に住む人、布沢を訪れる人みんなが、にっこり嬉しく楽しくなるように、布沢の未来が今よりもっとゆたかなものであるように、という願いを込めている。

布沢に現在ある資源や、布沢について思っていること、考えていることなどを、布沢に住む女性6人がピンクの紙に、私たち女子学生4人が黄色の紙に思いつくままに、できるだけ多く書き出した。そして、それをテーマごとに分けてまとめ、緑色で補足説明を付け足した。

まとめ方について、まず左側が布沢の良いところ、好きなおところで、右側が布沢で困っていること。また、それぞれを「人」「自然」「食」について分け、項目ごとにまとめた。右下が布沢への想いである。



次に、真ん中の吹き出しは、集落の方と私達の「こうなって欲しい、こうしたい」といった想いや願いで、中心の四角の中には「農業」「交流」「自然」などの視点から挙げられた提案が項目別にまとめられている。



真ん中の提案のところには「布沢でにっこり」と書かれている。これは、今回 KJ 法を行い布沢の女性から話を聴かせて頂いたなかで、私達の知らなかった良いところ、困って

いるところ、また新しい資源を知ることができた。そこで、10年後、20年後も布沢に住むおじいちゃん、おばあちゃんから子どもまでの住民が、布沢にある食材が、布沢にある畑が、田圃が、山が、花が、家が、全てのものがにっこりしている集落にしようという意味を込めて「布沢でにっこり」と書き中心に置いた。

・「人」「自然」「食」について好きなところ、困っているところに分けたとき、「食」についてだけ困っているところが挙げられていなかった。私たちも布沢に来るとおいしい料理を沢山頂いた。夏に訪れた時は家の隣に畑があり、集落のみなさんはほとんどのものは家でつくっていたので、困っていることがないのだと思った。むしろ「食」については好きなところ、自慢が多く挙げられた。

・全体をみたときに、私たち学生は布沢の好きな部分を多く挙げているのに対して、布沢の方々は、困っているところを多く挙げていた。集落点検ワークショップで布沢の良いところを沢山みつけたので、学生が挙げたのは好きなところが多かったのかなと考えた。外から来た私達が布沢の良いところを沢山見つけることができたので、それを地域の人に多く伝えられたら良いと思う。



6-4 KJ法のまとめ

◎提案への投票

- ・今回 KJ 法で集落の皆さん、学生から多くの布沢のいいところ、改善したいところ、こうなしてほしいというところ・・・など、様々なアイデアを出して頂いた。
- ・その中からみなさんが興味もったこと、気になったことにシール(男性は青色、女性は赤色)を貼ってもらった。

<目的>

- ・集落の人が布沢に対しての思いを再確認すると共に、今後どのようにしていくか考えるきっかけをつくる。
- ・男女別に統計をとることで、どのような考えの差があるのかみる。

<結果>

今回、シール貼りによる投票を行った結果は以下の通りであった。

◎全体

- 1位：民泊
- 2位：農村(別荘)レストラン
- 3位：老人ホーム
- 4位：森林の居酒屋

◎男性

- 1位：民泊
- 2位：森林の居酒屋
- 3位：農村(別荘)レストラン
- 4位：役員の半分を女性に！

◎女性

- 1位：老人ホーム
- 2位：農村(別荘)レストラン
- 3位：民泊
- ：親子一緒に暮らす

●●●●●	民泊	●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●	農村(別荘)レストラン	●●●●●●●
●●●●●●●●●●	グリーンツーリズム	●
●●●●●●●●●●	米粉ピザ	●●
●●●●●●●●●●	森林の居酒屋	●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●	エコツーリズム	●●
●●●●●●●●●●	販路開拓	●
●●●●●●●●●●	老人ホーム	●
●●●●●●●●●●	地域活性化計画	●
●●●●●●●●●●	行政の支援	●
●●●●●●●●●●	除雪作業	●
●●●●●●●●●●	自立した集落	●
●●●●●●●●●●	仕事欲しい	●
●●●●●●●●●●	みずがま	●
●●●●●●●●●●	都市の小学校との提携	●●
●●●●●●●●●●	親子一緒に暮らす	●
●●●●●●●●●●	人がいっぱいいな集落	●
●●●●●●●●●●	外部からの人大歓迎	●
●●●●●●●●●●	定住民が欲しい	●
●●●●●●●●●●	じいちゃんばあちゃんの知恵欲しい	●
●●●●●●●●●●	荒地の有効利用	●
●●●●●●●●●●	水管理のお手伝い	●
●●●●●●●●●●	農業ボランティアの受け入れ	●
●●●●●●●●●●	布沢に人が来るきっかけづくり	●●
●●●●●●●●●●	大学生を呼んで活性化	●
●●●●●●●●●●	食堂をつくる	●●
●●●●●●●●●●	蛍の復活	●●
●●●●●●●●●●	歴史を感じる	●
●●●●●●●●●●	子どもから大人まで役割がある	●
●●●●●●●●●●	みんな笑顔☺	●
●●●●●●●●●●	整備された自然景観	●
●●●●●●●●●●	川で遊べる	●
●●●●●●●●●●	人の心が温かい	●●
●●●●●●●●●●	行事が多い	●●
●●●●●●●●●●	隣近所の仲が良い	●
●●●●●●●●●●	星きれーい	●
●●●●●●●●●●	化石がある	●
●●●●●●●●●●	おいしいお米	●●
●●●●●●●●●●	おいしいカボチャ	●
●●●●●●●●●●	けんちん餅	●●
●●●●●●●●●●	楽しむことが下手	●
●●●●●●●●●●	自然環境を保ってほしい	●
●●●●●●●●●●	ふれあい広場を続けたい	●
●●●●●●●●●●	役員の半分を女性に!	●●●
●●●●●●●●●●	ブナ林探索	●●
●●●●●●●●●●	集落営農	●
●●●●●●●●●●	松坂峠の通路	●
●●●●●●●●●●	郵便局の利便性向上	●
●●●●●●●●●●	農道の整備	●
●●●●●●●●●●	森林療法ツアー	●
●●●●●●●●●●	郷土料理の伝達	●
●●●●●●●●●●	恵みの森林の水販売	●

シール貼りによる投票を行って、全体的には男性も女性も民泊をやりたい(やれたらいいな)と考えていることが分かった。また、KJ法で男性チームから出ていた「森林の居酒屋」と「役員の半分以上を女性にしたい」という提案には、男性票が集まった。一方、それらに女性票はあまり入っていなかった。

女性票が集まったのは、老人ホームを作りたいといった意見であった。布沢には1人暮らしの高齢者もいるため、老人ホームがあれば安心できるのかなーと思った。食材が多くあつてご飯のおいしい布沢でレストランをやりたいという「農村レストラン」にも多く票が入った。女性の活躍できる場の検討も必要だと考える。

7. その他の活動

7-1. 恵みの森

・概要

恵みの森とは、ブナの原生林が生い茂る布沢区にある森のことである。面積は全体で920haにも及ぶ。布沢川から熊の沢、大滝沢、おどしま沢、鎌倉沢周辺から戸板山、鎌倉山に至る一帯を指している。新緑の季節や紅葉の季節などにはたくさんの観光客が散策に訪れる。

・感想

私たちは10月17日の午前中に刈屋さんの案内のもと、恵みの森を散策した。沢に沿って歩き、紅葉前のブナ林を堪能した。恵みの森を歩いた時には周囲にたくさんの自然があり、童心に帰った気持ちで楽しむことが出来た。楽しすぎて、帰るのが名残惜しくなった。また行きたいと強く思うと同時に、この恵みの森も布沢の貴重な資源であり、改めて布沢の自然の豊かさを感じる事が出来た。また、案内してくれた刈屋さんから、恵みの森にあるキノコ採りを体験させていただいた。キノコには、見た感じ似ていても食べられるものと、食べられないものがあり、恵みの森の自然の中でキノコの知識も習得することができ、大きな成果となった。その時に採取したキノコも、少し宇都宮に持って帰り、後日ゼミの時間にみんなで試食した。恵みの森で私たちの心とお腹が豊かになった。今度は癒しの森を散策し、癒されたいと思う。



7-2. 雪の暮らし体験

夏と秋に布沢へ行った時、真冬の布沢は雪が凄いという話を聞き、私たちは2月11日～13日に真冬の布沢の生活の様子を知るために布沢を訪れた。そこで、雪おろし体験、かんじき体験、雪まつり、ウサギ狩りの勢子体験をさせて頂いた。

○雪おろし

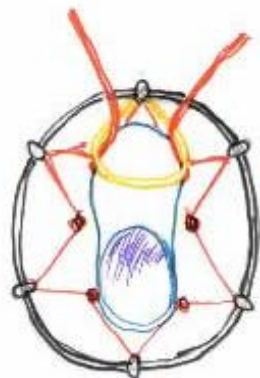
豪雪により森林の分校ふざわの一階部分が雪に埋もれていて驚いた。1日目には風呂のボイラーに空気が入るようにするためボイラー周辺の除雪を行った。この日は雪国名物「かんじき」初体験で、慣れない雪の中でも歩くことができて感動した。最初は、雪かきなんて楽勝だろうと思っていたが予想していたより体力が要り、雪かきの大変さがわかった。雪国の人達はこれを毎日やっているのかと思うと頭が下がる思いである。

みんなで頑張って除雪したので無事にお風呂に入ることができた。



3日目には炭焼き小屋「やまびこ」の除雪を行った。夏に来たときに見た炭焼き小屋がすっぽりと雪に埋もれていたもので、こちらの光景もまた驚きだった。スコップとスノーダンプを使いながら、地元の方々と一緒に「やまびこ」の救出作戦に臨んだ。菅家和義さん達から重心移動を利用したスコップの使い方を教わり、うまく作業できるようになった。とりあえずみんなで雪を掘って行って、屋根が顔を出した時はちょっぴり感動ものだった。かなりの雪の量だったが全体の半分程度を除雪完了し、最後には小屋の入口を行き来できるようになった。スノーダンプが疲労によりリタイアした(岩瀬くんが壊した…)が、「やまびこ」救出作戦、みんなの頑張りで無事に成功を収めた。

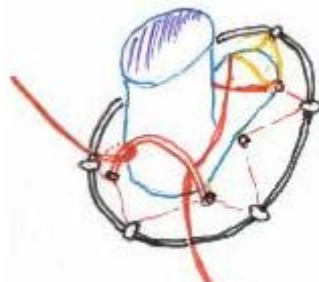
○地元の方に教えてもらったかんじきの履き方



①前の輪っかに通します。



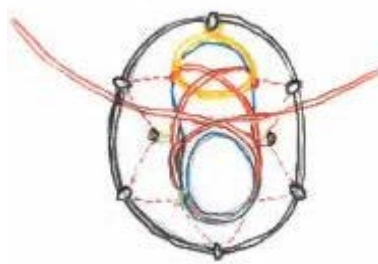
②前でクロスさせて後にまわします。



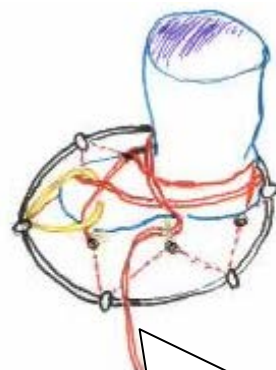
③後の輪っかに通します。



④後ろでクロスさせます。



⑤前にもってきてもう一度クロスさせます。



⑥足の下の紐に通して上で結びます。



只見ふるさとの雪まつり

今年の只見ふるさとの雪まつりは、39回目の開催ということもあり、伝統と歴史のある祭りとして多くの来場者により盛大に行われた。南会津地方では、各自治体独自に様々な雪まつりを行っているが、今回の只見ふるさとの雪まつりは、福島県内のテレビ局や新聞社など数々のマスメディアに登場し、福島県の代表的な雪まつりとして報道されていた。私達もこの雪まつりに参加してみて、予想以上のスケールに驚きと感動を隠せなかった。



↑ 入場門「兎」前で撮影

雪祭りが行われた只見町の中心部である只見地区は、布沢から車で30分程の場所に位置している。中心部だけに店や宿泊施設が数店舗あり、まち的功能を十分持っていると感じた。ただ、普段は只見駅前もシャッター通りになっているそうなので、シャッター通りの改善が必要だと感じた。雪まつりでは、様々なイベントが行われており、各団体のブースもメインステージに負けなくらい大賑わいだった。ニシンの飯寿しのように伝統的な地域の食や、マトンケバフ・熊汁のような雪まつり名物の食べ物、またたび細工・つる細工などの民芸品が売られていた。特に民芸品は、地域のお年寄りたちが作ったものが多く、お年寄りの知恵と技がなければ作れない品物が手ごろな価格で販売されており、売上がお年寄りの収入の一部にもなるので良い取り組みだと思う。



会場に訪れていたお客さんの年代を見てみると、お年寄りだけでなく、小さな子供や、若者、女性の姿も目立った。皆が地元の人ではないと思うが、外部の人でも只見町の祭りに訪れることで、只見の生活や伝統文化、郷土料理が分かり地域活性化の基礎としても雪まつりは大きな役割を果たしていると考えられる。



私たちは、メインステージで行われていたショーのうち地域の若者が復活させた梁取神楽と圏外バンドによるショーを見た。神楽は、まだ復活して3年目という若い団体による公演で迫力の感じ

られる素晴らしい演技だった。圏外バンドは、他の地域から只見に移住した人がメインのバンドで雪まつりのテーマソングを歌うグループである。この歌は、心に残る温かい歌詞と曲が印象的で初めて聞いた人でも口ずさめる歌だ。

私たちが圏外バンドの歌を聴いていると只見をいつでも思い出せる気がした。今回私たちは、1時間弱という短時間しか雪まつりを見られず一部分のみを見ただけだったので機会があればまた雪まつりを見に来たいと思う。心と体の温まる雪まつりは、雪国だからこそできる祭典なので、地元の人だけでなく多くの外部の人にも訪れてほしいと思う。



↑雪むすめと写真を撮る守友先生&岩瀬

↑圏外バンドによるライブ



↑またたび細工・つる細工などを販売する出店

○ウサギ狩りの勢子について

①勢子とは

勢子とは狩りにおいて動物を追いかけたり、逃げられないようにしたりする人のこ

とである。私たちは「雪の暮らし体験」の一環として、狩猟免許を持っている地元の馬場裕一さんと山内登市さんのご協力の下、ウサギの狩猟の勢子を体験した。場所は「森林の分校ふざわ」の裏にある山で行った。

②感想

私たちにとって勢子は初めての経験だった。かんじきを履いて裏山を登るだけでも大変だなと感じていたが、勢子では大声を出して山を走って登ると聞き、驚いた。実際に山を走って登ることはとても大変なことだったが、ウサギを見つけたときの感動は忘れられない。また、ウサギを追いかけた後の銃声には全員が驚き、動きが固まってしまった。一面銀世界で布沢の自然の豊かさ、厳しさを感じる事が出来た。ウサギは獲ることが出来なかったが、カモシカを見ることが出来た。

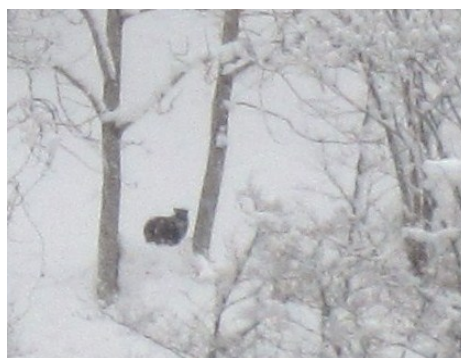
次、ウサギ狩りの勢子を行う機会があったら是非とも狩りを成功させてみたいと強く思った。



↑ 銃を試しに持ってきた守友教授(弾は入っていません)



↑ 勢子の様子



↑ カモシカ

8. 提案

地元の人の要望

- ・グリーンツーリズム

森の分校を宿泊施設に、農業体験や地域の人とのふれあいを通じて恵みの森や癒しの森を散策する観光プログラムがあったらいいな…

- ・民泊

私達の生活を知ってもらうことも大切だし、いろいろな都会の人と交流がしたい。

- ・森林の居酒屋

森の分校を利用したりして、地元の人が集まっているいろいろ話せる場が欲しいな。

良案は、酒とともにあるべし！！

布沢に釣りや自然を求めて観光に来る人との交流もしたい。

- ・森林療法ツアー

緑の恵みで心も体も元気になるから、都会の人の支えの場になりたい。

- ・定住民

私達以外にも一緒に布沢で暮らす新しい人が入ってきてほしい。

この場で生まれて生活してきた若者が快適に暮らせるようにしたいな。

- ・猫淵清水でビジネス

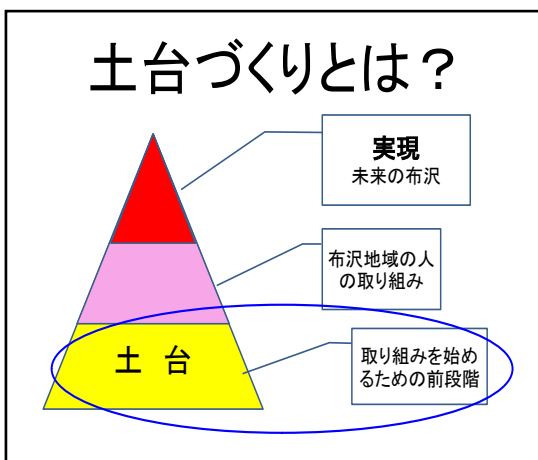
水がおいしいから何か水ビジネスができないかな

天然のホップもあるし地ビールとか作れたらいいな。

- ・販路開拓

この地域にはいろいろな農産物があるな。どうにかして販路開拓をしたい。

8-1 土台づくりとは



これらの住民の希望→実現（未来の布沢）
つまり、ピラミッドの図でいう頂点の赤色の三角形の部分

そのためには、取組を始めるための前段階＝土台作り＋布沢地域の人取り組みである、真ん中のピンク色の台形の部分が必要である。つまり実現には、前段階である黄色の台形の土台やピンク色の取り組みが前提になればいけない。ここで1番重要なのは基礎となる土台作りである。

布沢地区の土台作りとは？

今回は大きく分けて4つのことを土台として確立したい。1つ目は、近隣の市町村との交通網を通年で確立することだ。これは、現在金山町と布沢を結ぶ松坂峠が冬季期間は通行止めになっているため、松坂峠の年中開通を目標とするものである。只見町から会津若松市に抜けるには金山町を通るこのルートが最も近く交通を考えるととても重要である。唯一の鉄道であるJR只見線も冬季期間は運転見合わせが多く只見町の人々の足ともいえる交通不便が解消されることはとても難しい状況だ。←①道路開通

次にあげられることは、②情報の共有化である。情報の共有化とは、地元になにがあるのか。また、都市との情報の共有化など様々なものが考えられる。情報が共有化されることで、集落の人全員で一致団結して取り組むことができ大きな発展につながる事が期待できる。

3番目としては、集落を維持していくために、新たなことに挑戦することも大切だが、その前に③今あるものを維持することである。今あるもの、つまり普請や祭りなどが行われなくなってしまうと、集落としての機能の低下やコミュニティの閉塞につながってしまう。この今あるものを維持していくために、高齢者から若者へといった継承が必要である。また、今の祭りや会合があることで、住民には大きな力となるので、住民が、集落が少しでも住みやすい、未来を考えることができると思えるように、現在地域にあるものの維持をする必要がある。

最後に④外部の人の受け入れの検討があげられる。中山間地域では、高齢化率50%以上の限界集落化が進み若者が少ないのが現状だ。そのためグローバル化社会であっても、インターネットやパソコンといったIT機器を操作できる人の割合が非常に少ない。そこで、外部の若い人を受入れることで、遠く離れた首都圏との情報交換などが可能となる。つまり、IターンやUターン者が布沢で生活しやすい援助やサポートをすることが外部の人を受入れるための土台となる。

これらのことから次にまとめると以下の4つが基本の土台になる。

① 道路開通、②情報の共有化、③現在あるものの維持、④外部の人の受け入れの検討など

これをきちんと整備して土台をつくることでその次の発展につながる。

次にこの4つの土台作りについて詳しく説明する。

8-2 土台作り① 松坂峠の道路開通

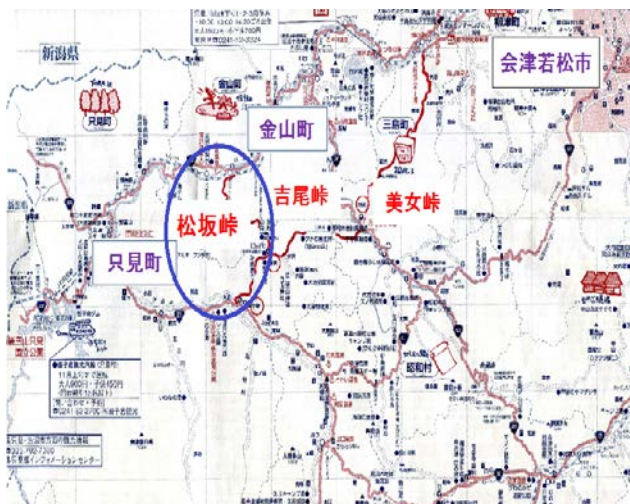
・概要

標高500～600m前後。只見町から金山町へと繋がる重要な道路である。しかし、冬期（12月下旬～3月下旬）は通行止めとなってしまう。そのため、冬期は只見町から金山町、金山町から只見町への短時間での移動ができなくなり、閉塞感を味わうこと

となってしまふ。また、会津若松への交通の便も不便になり、このことも地元の人たちに閉塞感を与えてしまふ要因の一つとなっている。

・通行止めの原因

降雪が多く、車では通行が出来なくなる。また、道が細く、くねくねと曲がっているため除雪車も入ることが出来ない。



・冬季開通が実現したら

冬季開通が実現したら、以下の5つのメリットが考えられる。

- ①交流人口の拡大
- ②閉塞感からの解放
- ③冬季の金山町、会津若松市との交流促進
- ④賑わいによる活性化への展望
- ⑤どん詰まり集落からの脱却

以上の5つのように、松坂峠の冬季開通が実現できたら、只見町を訪れる人、また、他の町へ出かける人（旅行、買い物など）が増え、交流人口の拡大につながると考える。この交流人口の拡大により閉塞感、どん詰まり集落からの脱却、また、賑わいによる集落の活性化などが期待できると考える。



8-3 土台づくり② 情報の共有化

集落をこれから活性化していこうとする際に、集落の人達全員がビジョンや問題点についての共通認識を持つことが「情報の共有化」である。世帯主だけでなく女性や高齢者も含めた住民全員（「1戸1票制」から「1個1票制」へ）が集落内の現状、活動状況、将来の展望について意見を出し合い話し合える場所があり、且つそれらの情報を共有できるか

がポイントである。情報が共有化できれば、個人ではなく全体的に同じ方向を向いて大きな展開をしていけるのではないか。

コミュニケーションが円滑になることで集落の人達同士が、常にお互いの状況について詳しく把握できるようになり、何らかの活動をするようになった際にも役割分担や調整、進捗の確認が可能になると考える。

現時点で問われているのは、情報がどのような手段によりどこまで共有化されているのかということである。これがすでに達成されているのであれば問題は無い。実際に私達が活動を行った時には集落の方々に集まって頂けて、受け入れ先である森林の分校ふざわも運営されており、ともすれば実は既にある程度情報は共有化されているのかも知れない。問題なのは十分に共有化ができていない場合である。例えば、世帯主間で情報を共有化出来ていても女性・高齢者間では出来ていない場合、今後はどのような手段を用いるかを考える必要がある。

また、私達が一緒に集落調査を行ったことも情報の共有化の一環だと考えている。地元の方の意見と私達よそ者の意見を比較することで新たな面も見ることができたと思う。無いモノより有るモノの方が多いことが分かったことが一つの成果ではないだろうか。

次のような順序で意見を出し合い、整理してみてもどうだろうか。

- ① 生活についての心配事、不便な点（交通、買い物）
- ② ①の問題について何をすべきか？何が出来るか？＝守りの部分

- ③ 集落内の現状、問題点（農業、普請）
- ④ ③の問題について何をすべきか？何が出来るか？＝守りの部分

- ⑤ 地域の資源は何があるか。「持ち出せる資源」 「持ち出せない資源」
（けんじ茄子、毒ぼっこ、一等地、森林、清水）
- ⑥ ⑤を使って何が出来るか？何がしたいか？＝攻めの部分

来年度も継続して調査を行うことで私達も情報の共有化の一助になればと思う。

8-4 土台づくり③ 現在あるものの維持

・普請

農道、街道、人道、山道、河川の清掃、社寺普請、大門普請、水路の普請(布沢のみ)がある。公共施設の除雪は普請の仕事である。普請に出ないと半日で2千円支払わなければならない

らないが、高齢者や病気、消防団の他の仕事がある場合などは免除される。高齢者が多く、人が集まることができないと、若い人に負担がかかってしまうことが問題点である。また、昔は人が多くて良かったが、今は割り振りが大変である。また昔はかんじきで雪を踏んで歩けるようにする道踏み番があった。

水路が点在しているため、一人二人では維持管理ができない。稲は作れるけど、水路の維持管理だけが大変なので耕作放棄地になってしまう。だから、普請で、みんなで協力して管理をしないといけない。

・楽しさと元気づくりの女性の会

ふれあいいいききサロンがきっかけで始まった。貴重な近況報告をする場、コミュニケーションの場、共同作業をする場である。

参加者は、15～20人で、女性が多く、70、80代が多い。参加費は200円と米1合。活動するのは平日の10時～14時で、冬は行っていない。現在行っている活動は、旅行、ゲーム、健康指導、研修など。

・老人クラブ

昭和後期頃から始まった。老人クラブも楽しさと元気づくりの会と同じように、貴重な近況報告をする場、コミュニケーションの場、共同作業をする場である。

60歳からみんな入る。参加者は約80人で、2グループに分かれている。女性が多い。現在行っている活動は、神社・お寺(龍泉寺)の清掃、観音様(お蔵入り三十三観音)・公民館周りの草刈り、木地師の方のお墓の清掃、花の観賞会など。老人クラブの方たちは、みんなで協力して、積極的に参加している。どこに誰が住んでいるか分かっているため、一人暮らしの方を訪ねたり、きのこなどを採ってきたらあげたり、冬は雪で動けないため、隣近所でお茶を飲んだりしている。

・郷土料理

けんちん餅、じゅうねん餅、じゅうねん揚げ餅、じゅうねんおにぎり、まつたけ酒、金山かぼちゃの煮物、けんじ茄子料理などがある。地域の特色が一番よく見えるものである。

結城登美雄著、『地元学からの出発』にも「都市とくらべて『ないものねだり』の愚痴をこぼすより、この土地を楽しく生きるための“あるものさがし”」とある。宮城県旧宮城町の「食の文化祭」のように、布沢にももっとたくさんの郷土料理が存在すると思う。

8-5 土台づくり④ 外部の人の受け入れ検討

・グリーンツーリズム

グリーンツーリズムを行うことで、都市住民との交流が積極的になり、活性化につながる。そのためには、受け入れ体制を整えるために、地域住民のネットワークを強化しなければいけない。単なるグリーンツーリズムでなく、歴史、文化、景観、自然、民俗という基礎

に、「農のある暮らし」を体験する場を追加することが必要。ワンパターンのグリーンツーリズムに、行事や祭り、「食と暮らし」を加え都市住民に情報発信をすることで大きな反響が予想できる

例) 只見町の雪まつり、地域資源を利用した農村レストランなど

・定住者

定住者を増やすには、安心して子育てができる環境を整備することが重要

最近、核家族化が進み子育て＝親と子の問題

そんな中、地域で子供を育てることは大きなポイントとなる。

地域のお年寄りや、住民がみんなで子供を育てる体制づくり

雇用の創出をすることも必要

地域資源をいかした内発的産業

近隣市町村との交通網の整備

・地域おこし協力隊とは？

「都会を離れて地方で生活したい」「地域社会に貢献したい」「人とのつながりを大切にしたい」「自然と共存したい」「自分の手で作物を育ててみたい」・・・と考えている人を、人口減少や高齢化の進行が著しい地方において積極的に誘致する取組。

対象は、3大都市圏に在住する人

地方自治体が都市住民を受入れ、地域おこし協力隊員として委嘱し、一定期間以上、農林漁業の応援、水源保全・監視活動、住民の生活支援などの各種の地域協力活動に従事して、当該地域への定住・定着を図っていくもの。あくまでも、地域協力活動は、地方自治体が自主的に判断して決定する。隊員は、原則的に支援をする自治体に住民票を移す必要があり、その地に定住することも可能なので、人口流出から人口増加にもつながる可能性がある。

・緑のふるさと協力隊とは？

農山村に興味をもつ若者を、地域活性化をめざす地方自治体に一年間派遣するプログラム。過疎・少子高齢化と厳しい状況にある農山村は、都市生活者には未知な世界である。そこで隊員たちは、その地域にしかない風土・人柄・文化を、四季の移り変わりとともに体感することで、「こんなに気持ちよく働いて、たくさんの人に出会い、感動した毎日はない」と感じ、また派遣先の人にとっても新鮮な風となる。

・地域に求められること

地域おこし協力隊・緑のふるさと協力隊どちらも地域に入れるのには、地元の人の積極

的な参加が必要。そのために、集落が一つになる必要がある。

ワーキングホリデーの検討

ワーキングホリデーとは、その名の通り働くことと休暇を複合したものである。つまり、ボランティアをしながら旅行ができるといった内容だ。最近中山間地域などの高齢化が進み農業後継者が減少している地域では、このワーキングホリデーが注目されている。都会の学生や若い社会人は、田舎での生活にあこがれている人もいる。そんな現状の中1日のうち5時間程度を農業などの作業を通したボランティアワーキング（働くこと）、そして残りの時間を自然の中でしかできないホリデー（休暇）をすることは、互いにメリットを生むことになる。ワーキングホリデーの大きな特徴はアルバイトとは違い働くことはボランティアであり労働の対価は、地元の人との交流や宿泊場所の提供などであり、資本主義社会では珍しい金銭取引を含まない形の活動である。1980年代ごろ当初は海外向けの事業として登場したワーキングホリデーだが、現在では農村向けワーキングホリデーが注目されている。耕作放棄地や遊休地が増加する中山間地域の土地利用や、交流人口の拡大といった諸問題の大きな解決策として大きな力が期待できる。

只見町布沢地区での可能性

このワーキングホリデーを只見町布沢地区で行うことを想定するならば春夏秋冬の四季を感じながら取り組むことが可能である。たとえば春夏秋ならば、ワーキングとしての農作業とホリデーとしての「恵みの森」や「癒しの森」の散策や溪流釣り体験、山菜採り。また、冬ならば、ワーキングとして高齢者単身世帯の雪下ろし、ホリデーの雪国体験が考えられる。緑のふるさと協力隊のような長期滞在型の交流人口拡大策も重要だが、短期の交流人口拡大もそれ以上に大切である。短期受け入れで福島県の知名度アップや、只見町と都会の結びの強化など多くのファンを作ることができる。このファンが福島県や只見町といった町村に興味を持って故郷とってくれることが地方の大きな力にもなり集落維持の大きな成果になることも間違いない。

ワーキングホリデーのための準備

ワーキングホリデーは、農作業をし、農家に宿泊するので、農家の受け入れ体制を整えることが大切である。会津若松市では、農水省の事業を活用したワーキングホリデーが行われている。会津若松市の場合数件の農家がワーキングホリデーの受け入れをしていて農作業を手伝ってもらう代わりに各農家が宿泊と食事を提供する取り組みが行われている。農家への民泊を中心に行われているが、民泊が難しいようならば旧民家を改装した宿泊施設の整備を整えることでワーキングホリデーを実現させることも可能である。いずれにしても、集落が一致団結して取り組むことが必要になるが布沢地区ならば実現可能だと思う。

9. 来年度からの取り組み

今年度は布沢に入って1年目の年だったので、布沢の現状把握や、状況を調査し、2年目以降、どのように取り組んでいくかを考えることをメインとして活動を行ってきた。

その中で、集落点検ワークショップや聞き取り調査、KJ法やその他の体験活動を行って、布沢の資源に気づき多くの“いいもの探し”ができた。そして私たちがよそ者視点で見つけ出した布沢の資源を利用した提案も多く出された。

これらを元に来年度以降は、実際に集落の人たちと実践して取り組んでいかなければいけない。

まず来年度は、今回の結果を受けて布沢に住む方々に「実際にやってみたいこと」を聞いて調査する。大学生が1年間布沢に来たことによって、実際にやってみたいと思ったこと、考えたことを聞いて、そのための準備段階としてそのサポートを私たちが行う。あくまで主体となるのは地域の人なので、私たちが「これをやったらどうか」と提案して、それを行うのではなく、地域の人がやりたいと思ったことを行う。外からの視線を失わないで、良い情報やみつけたものはどんどん地域の人に教えていけたらと思う。

またそれと同時に、今年度は2回しか布沢へ調査に行けなかったもので、来年度はより布沢のことを知るという目的で、今年度の調査でわかった提案や私たち学生が考えた4つの土台作りを実践的に取り組んでいきたい。

具体的には。

①今回は、地図でしか確認できなかった松坂峠の様子を雪が溶けた時に視察し、実際にどんな道路なのか、また地域資源としての松坂峠を理解したうえで改善策・活用策を考える。加えて、冬季の松坂峠にも足を運び、実際に閉鎖されている様子を見てくる。

②情報の共有化では、世帯主のみが決定権を持つのではなく地元の若者や女性の権限を大きく取り入れた取組を考える。また実際にどのような情報共有方法があるのかの確認もする。今回おこなった集落点検ワークショップやKJ法も集落の人達の情報を共有する場となっていたので、そのような場を作ることもしたい。

③現在あるものの維持として、普請に直接参加し、地元の人と一緒に汗を流し、現在普請がどんな状況なのか理解したうえで今後の在り方などを集落の人と一緒に考える。また、郷土料理や地元の主婦なら誰でもできる料理を各家庭から持ち寄ってもらい、「布沢食の祭典」の開催も考える。さらに布沢の野菜を宇都宮大学の学生が大学の近くで行っているカフェ「そのつぎ」で食材として活用することも検討する。

④外部の人の受け入れの検討では、都会と布沢の生活の違いから、布沢の魅力を引き出す工夫を提案したいと思う。現在でも森林の分校ふざわへの宿泊客や観光客がいるので、自然体験や農業体験と合わせてそういった活動を広げる検討をする。

今年度の活動で、布沢では多くの資源や施設があるのに関わらず、呼び込む力が少し弱いのではないかと感じた。なので、来年度は、森林の分校のふざわの利用者の傾向も分析してターゲットを絞りより利用してもらうにはどうしたら良いのかを併せて考えていきたい。

また今後只見町全体の勉強会が始まるので、私たち学生もぜひ参加し、交流の幅と回数を増やす予定である。

これらのこと以外にも様々なことを調査だけではなく、実践として行っていくことを次年度の私たちの布沢での取り組みにしたいと考える。

参考文献

- 小田切徳美 『農山村再生 「限界集落」問題を越えて』 岩波書店 2009年
中嶋信 編著 『集落再生と日本の未来 持続できる地域づくり』
自治体研究社 2010年
結城登美雄 『地元学からの出発』 農山漁村文化協会 2009年

後記

本調査研究は、福島県企画調整部地域振興課が主催する「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」にもとづくものである。これは福島県が平成22年度からスタートさせた「福島県過疎・中山間地域振興戦略 里・山いきいき戦略」の一環としておこなわれたものである。またこの事業と連動させて、宇都宮大学の学長裁量経費である「地域連携活動事業費」の交付を受けた。

地域と大学から、委託事業ならびに活動事業費を受けて、地域活性化と連動させて教育活動として取り組んでみようと思ったのは次の理由による。

過疎・高齢化が進む地域、集落を支援しようとする動きは、今各地で起こりつつある。NPO 法人地球緑化センターが17年の長きにわたって取り組んできた「緑のふるさと協力隊」をはじめとして、学生有志による「地域づくりインターン」、農水省の「田舎で働き隊」、総務省の「集落支援員」「地域おこし協力隊」など多岐にわたる。

こうした実践の中で近年検討されているのが、「掛け算の支援」と「足し算の支援」についてである。「掛け算の支援」とは専門家やコンサルタントが提案を行うものであるが、いくら良い提案であっても、現地が元気がなくマイナスの状態であれば、いくら掛け算的に支援を行っても、マイナス状態はいつまでもマイナスである。こうした時にはたとえ素人であっても、地域の人により添い、地域の人のお話を聞いて、その話の中から学んでいくことが重要である。そして地域の人々が若い世代と話すことによって、少しずつ自信を取り戻し、マイナスからプラスの状態へなっていくという可能性が生じてくる。これを「足し算の支援」というが、この役割は学生が最適である。地域の人々に謙虚に学び、そこで地域の人々が元気になり、そこからまた学生達が高いレベルで学ぶことができるのである。本調査研究は寄り添いの「足し算の支援」の中で学生達が地域の現実と自己を見つめ直して成長していくことを大きな目標とした。

本報告書は地域への提言であると同時に、若き可能性を秘めた学生達の成長の記録でもある。報告書中の地域の人々と学生達の輝いた瞳を見て頂きたい。

福島県ならびに宇都宮大学による、学生の自主的な調査研究活動ならびにその成長への支援に対してあつくお礼申し上げる。

さらにこの調査にあたっては、只見町布沢区の区長大竹福男様、連携窓口となった布沢区の刈屋晃吉様はじめ布沢区の非常に多くの皆様に大変お世話になり、また物心両面からのご支援をいただいた。

こうしたご支援、ご協力により本調査は1年目の成果のとりまとめをすることができた。次年度以降、実証実験を含めた集落活性化調査に取り組んでいきたいと考えているので、今後ともますますのご指導、ご支援をお願いしてお礼の言葉としたい。

2011年3月

宇都宮大学農学部農業経済学科 守友裕一

